

## 地域に開けた病院へ ～地域事業所との連携強化～

医療法人社団KNI 北原リハビリテーション病院

○ 作業療法士 ウチダ ナルミ トラミ ユウコ モリ カナ オクダ アキラ 内田 成美 虎見 裕子 森 加奈 奥田 明

### 【はじめに】

私達は、病気を発症して入院した患者様がより良い生活が送れる事を期待し、病院内でチームを組み、退院まで支援する。しかし、患者様が病院の患者という殻から脱し、生活者として地域で過ごすには、地域で支援している地域事業所との連携が重要になる。今回は、北原リハビリテーション病院（以下：当院）で、地域との連携を強化する為に、病棟スタッフである作業療法士（以下：OT）2名、医療相談員1名、看護師（以下：Ns）1名でチームを組み、連携強化に向けて取り組んだ活動を以下に報告する。

### 【目的】

患者様の退院後の満足できる生活を考える事に加え、地域との連携、地域事業所と病院の質の相互向上、病院職員の知識の習得を目的として、1年間に交流会と勉強会をそれぞれ2回実施した。勉強会のテーマは交流会の際に希望を募り実施した。また、患者様の転院先の情報を収集することや、サマリーなどの情報共有手段の検討を目的として、病院職員が事業所へ見学に行く機会を設けた。

### 【対象】

交流会・勉強会は、八王子市と日野市周辺の地域在宅支援関係者を招いて開催した。また、事業所見学は、当院の患者様が転院する機会の多い、八王子市内の療養病院に依頼した。

### 【結果】

交流会・勉強会にはケアマネージャーや訪問介護のヘルパー、デイケア・デイサービス職員やリハビリ関係者など、1回の開催で10名から15名前後の参加者が集まった。交流会では病院側への意見や、困っている症例について検討できた。勉強会では、「看護師による体調チェックポイント」や「日常生活の中で出来るリハビリと指導のポイント」をNsとOTが講義を行なった。各回で意見交換の場を作り、参加者からは積極的な意見が出た。事業所へのお見学の時は、申し送りの方法を検討出来たり、施設の規則や構造を知り、利用者様の様子を拝見させていただくことができた。アンケートの結果からは、「多くの意見を聞き、ニーズや悩みを共有することが出来てよかった」「多種・多様な業種があるが、その役割を把握する事が連携の第一歩であると思った」などの感想が聞かれた。また、今後の課題として「会の時間が短い」「テーマを事前に教えてほしい」などのご意見も頂くことができた。

### 【考察】

病院と地域との連携は、体制が整っているとはいえず、お互いが顔を合わせた事のない中で連携を取っていかねばいけないことが多い。連携の大切さは分かっているものの、異なるフィールドで働いている者同士が何を求めているかを理解する事は難しい。このような機会を設ける事で、お互いが顔を合わせる機会になり、連携する相手が何を求めているかを把握し双方のニーズを満たして行くきっかけになったのではないかと考える。また、今年度の活動を通して、地域で活躍するそれぞれの職種の役割を理解し、役割に合った分野で力を発揮できる事が連携しやすくなるポイントではないかと感じた。今後は、この取り組みを継続して、地域との連携がスムーズになるきっかけにしていきたいと考える。